

平成 27 年度 第 2 回

那 須 烏 山 市 総 合 教 育 会 議 会 議 録

平成28年2月29日(月)

午後1時30分～

発 言 者	審 議 の 経 過 及 び 結 果
1. 開会	岩附学校教育課長が開会を宣した。
2. あいさつ	大谷市長、田代教育長が挨拶した。
4. 議事	大谷市長が議事進行した。
大谷市長	1) 那須烏山市教育大綱(案)について議題とする旨を告げ、事務局に説明
	を求めた。
岩附学校教育課長	那須烏山市教育大綱(案)について説明をした。
大谷市長	質疑に入る旨を宣した。
澤村委員	PDCAサイクルとして、前ビジョンの5年間に係る反省点などは網羅されている
	か。また、良いものができたと思うので、関係者だけではなく、PTA、保護
	者などに抜粋したものなどを配布し、周知徹底をお願いしたい旨を述べた。
岩附学校教育課長	前回のビジョンと内容的にはあまり変わっていない。反省点については、毎
	年実施している事務事業点検・評価において報告している。大きく変わっ
	たところは、学校施設整備が耐震工事等完了したため削除していたり、新
	規に始まったジオパーク等について掲載している旨を説明した。
大谷市長	教育振興ビジョンは構想であり、これに基づいて実施計画や年次計画に具
	体的な事業を盛り込み予算化することとなる旨を述べた。
岡崎委員	この教育振興ビジョンは良くできていると思う。今後は具体的な事業、枝葉
	の部分、例えば、烏山城の調査報告書が出来上がり、今後の発掘調査の
	実施、小中学生に対するインターネットの指導、経済的困窮者に対する教育の
	機会均等対策、家庭教育の充実など、重要な施策が必要となってくる。大
	筋としては良いと思う。しかし、自然環境に関すること、特に希少な動植物
	を市内外にPRするような方針も必要と思うがどうか質した。
岩附学校教育課長	「誇れる自然、芸術・文化の創造」の自然史的資源の継承と活用の部分で
	網羅していると考えている旨を説明した。
澤村委員	近年、家庭での学習時間が少ないように思う。烏山中学校で実施されたア
	ンケートでも、約5割の子供達は家で勉強していると答えたが、4割はしてい

発 言 者	審 議 の 経 過 及 び 結 果
	ないとのことである。家庭での学習は重要であり、全国学力学習調査でも
	結果が出ている。このビジョンには家庭学習に係る施策が出されていない
	ようであるがどうか。また、新聞を活用した学習が話題になっているが、本
	市の学校では実施しているのか質した。
岩附学校教育課長	家庭教育については、各学校において家庭学習をするよう保護者あてにプ
	リトを配布したり、ゲームなどに夢中にならないようノーマディアアンケート等を実施
	している旨を説明した。
佐藤生涯学習課長	家庭教育については、生涯学習部分で掲載しており、各学校で対応してい
	ると思う旨を述べた。
阿久津委員	烏山小学校では、年2回ほど家庭教育を習慣付けるため、宿題をしたこと
	を親が確認するということを実施している。個別では努力している家庭もあ
	るが、保護者が「宿題が多く子どもがかわいそう」をいう家庭もある。宿題
	の出し方などは、学校によって違うだろうし、同じ学校でもクラスによって違
	いがあると思う。よいところを学校や市内で統一できれば良いと思う旨を述
	べた。
大谷市長	校長会等において、啓発等を行い取り組んで入れれば良いと思う。家庭
	学習については、市内は全体的に低いと思う。全国学力学習調査で上位
	の福井県や秋田県などのホームページを見ると、学力向上のために特に何も
	実施していないようである。しかし、宿題は多く出しており、家庭学習の時
	間が多くなることによって学力が向上しているようである旨を述べた。
澤村委員	何らかの方法で家庭学習の習慣付けが必要である旨を述べた。
阿久津委員	より良い校風づくりとあるが、基本的学力を身に付けることはもちろんであ
	るが、その学校の特色を出すということはなかなか難しいと思う。大人数の
	学校が良いか少人数の学校が良いか一概には言えないが、一般的には
	学力を上げるにはきめ細かに指導ができる少人数、向上心や協調性を育
	てたり、運動をするには大人数の方が良い様に思われる。現在、烏山小学

発 言 者	
	校では、1クラス40人で先生が1人の学級があり、授業中、全ての子供達に対応できていない状況にあると思う。学校間での平等な学習環境状態を確保するよう検討してほしい旨を述べた。
田代教育長	新聞による学習については、新聞社とのタイアップにより授業の中で、記事の作成や特定の記事について子どもたち同士で話し合うといった学習を行っている旨を説明した。
岩附学校教育課長	市内全小中学校で、こども新聞等を購入している旨を述べた。
澤村委員	安全指導について、最近交通事故のニュースが多く、通学の安全、安心に力を入れなければならないと思う。また、学校給食について、地元の食材を利用し、地産地消を推進してほしい旨を述べた。
大谷市長	安全安心については、今年からスクールバスで通学できる範囲を広くし、小学校では4kmを2km、中学校では6kmを4kmと距離を短くしたり、境地区については、来年から市営バスを通学に利用していた区間に、スクールバスを運行させるなど、安全面を考慮している。また、バス停から家までの通学路には地域のボランティア106人で構成する子ども見守り隊を結成し、できる限り子どもたちの安全を確保している。今後も充実させていきたい。学校給食については、原則地元の食材を利用している。また、年に数回、地元の牛肉を使った料理や中山かぼちゃを使ったプリンなど特別な給食を提供している。今後も充実させていきたい旨を述べた。
網野委員	このビジョンについては、どの範囲まで配布を行うか質した。
岩附学校教育課長	関係者のみに配布する予定である。一般向けにはホームページなどに掲載してPRする予定である旨を説明した。
大谷市長	ビジョンに係る概要版等を作成し、保護者やPTAなどにも配布してPRしてほしい旨を述べた。
大谷市長	他に質疑がないかと会議に諮り、質疑がないので那須烏山市教育大綱については原案のとおり決定してよいか会議に諮った。

発 言 者	審 議 の 経 過 及 び 結 果
	(全員異議なし)
大谷市長	全員異議なしと認め、那須烏山市教育大綱(案)については原案のとおり
	決定したので、那須烏山市教育振興ビジョン(Ⅱ期計画)を那須烏山教育大
	綱と位置付ける旨を告げた。
大谷市長	続いて 3)意見交換に入る旨を告げ、各委員から意見等を求めた。
大谷市長	烏山高校について、統合後6年間、出願倍率が1.0を超えていなかったが
	今回、ようやく1.0を越えて感激している。市として、烏山高校を存続させる
	ため、2年前から那珂川町と協力して通学費の補助を行った。烏山高校の
	アンケートでは、対象者106人のうち30人が交通費補助で学校を選んだとの
	回答であった。また、文武両道の質も上がってきたとの話も聞く。今後もし
	ろいろな面から支援していきたいと考えている旨を述べた。
澤村委員	市民としてもうれしいことと思う。市内から高校がなくなると寂しいと思う旨
	を述べた。
大谷市長	烏山高校、JR烏山線及び那須南病院が地域活性化の重要な拠点であり、
	無くなってしまうと地域が疲弊してしまう旨を述べた。
岡崎委員	これらが無くなってしまうと、地域への影響が大きいと思う。また、高校は、
	教育の機会均等には必要なものである。高校では、進学、就職など出口
	がしっかりしていれば入学者も増えると思う旨を述べた。
大谷市長	現在の烏山高校の大川校長には、特色ある学校を作ってほしい旨要望し
	ている。特に本市では、市内小中学校全校にALTを配置したり、なすから
	英語塾を設置するなど、英語に力を入れており、烏山高校も英語に特化し
	た学校となってほしい。ゆくゆくは、幼保小中高一貫教育を設置できればと
	考えている旨を述べた。
阿久津委員	インフルエンザの予防接種について、乳幼児の予防接種が少ない。補助がなく
	1回4,500円で2回しなければならず、医療費が無料ということもあり、インフ
	ルエンザに罹っても良いとの風潮がある。しかし、インフルエンザ脳症で死亡した

発 言 者	審 議 の 経 過 及 び 結 果
	乳幼児の症例もあり、この脳症に罹ると約25%で後遺症が残るとの統計も
	ある。65歳以上の高齢者は、予防接種に補助が出るが、元気な方も大勢
	いる。持病のある方には受けてほしいが、補助の出る年齢を段階的に引き
	上げ、乳幼児への補助に回すことを検討してほしい旨を述べた。
大谷市長	定住促進のため、教育、医療を充実させてきており、医療については、中
	学生まで現物給付を行うこととした。しかし、インフルエンザに罹ると療養費の方
	が多く掛かると思われるので、今後検討して行きたい旨を述べた。
大谷市長	他に意見がないかと会議に諮り、意見がないので議事は全て終了した旨を
	告げた。
4. その他	特になし。
5. 閉会	大谷市長が閉会を宣した。
	午後2時40分閉会